J-STAGE NEWS：J-STAGEニュース No.27

電子ジャーナルの最新情報をおとどけするJ-STAGE機関紙

No.27　2011年3月30日

ISSN 1346-1990

2011年3月30日発行

独立行政法人
科学技術振興機構

今号の記事：
- ●J-STAGE3 の開発について
- ●世界最大級の文献情報データベースと連携開始！
- ●J-STAGE ニュースNo.26 号　九州大学名誉教授齋藤省吾先生のご指摘に対する回答
- ●品質状況調査結果報告・電子化状況調査中間報告
- ●J-STAGE フェア 2010 報告
- ●J-STAGE の各規約・細則が改正されました

東北地方太平洋沖地震において
被災された皆様に心より
お見舞い申し上げます。

J-STAGE

災害復興・発展の知識基盤として
J-STAGEをご活用ください

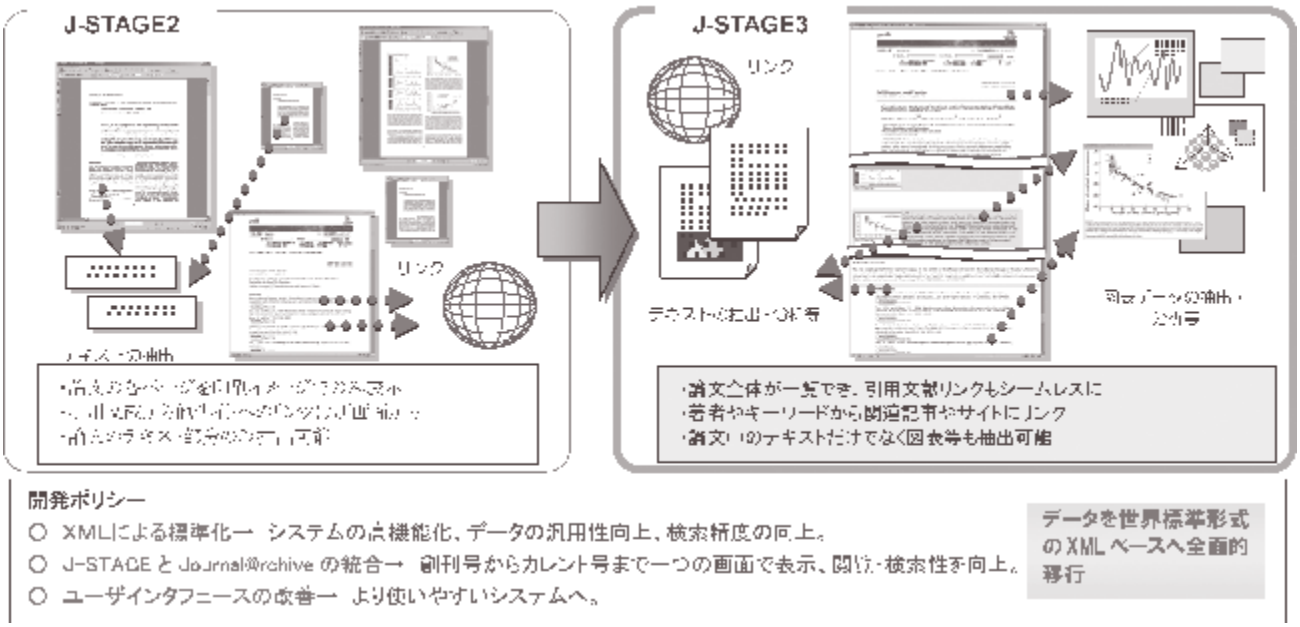
J-STAGE3 の開発について

～　20 世紀の J-STAGE2 から 21 世紀の J-STAGE3 へ　～

知識基盤情報部　電子ジャーナル担当

J-STAGE は 1999 年 10 月に運用を開始し 12 年目を迎えました。2003 年にバージョンアップを行い、現在は J-STAGE2 として運用していますが、この度、学協会やご利用者の要望を踏まえ、世界標準のシステムとするため、次世代システム（J-STAGE3）の開発に着手しています。ご利用いただいております現在のシステム（J-STAGE2）は、2012 年 3 月に運用を終了いたします。XML 化、J-STAGE とアーカイブとの統合、利便性・操作性の向上など、大幅な改善を図り、新たなシステム「J-STAGE3」として生まれ変わります。

以下に J-STAGE3 の概要（特徴）をご紹介します。



J-STAGE3 の公開システムは 2011 年度にプログラム開発を行い、試行運用を経て、2012 年 4 月に運用開始の予定です。詳しくは、下記の J-STAGE サイトの学協会様向けページ

http://info.jstage.jst.go.jp/society/development/index.html　をご覧ください。

今後も、J-STAGE 説明会や J-STAGE ニュース、HP 等で逐次、開発状況をご案内してまいります。

J-STAGE3 投稿審査システム

オンライン投稿審査システムでは、著者による論文の投稿、編集側の査読者手配や実際の査読・審査、採択までを、すべてインターネット上で行えます。

現在は、J-STAGE 公開システムご利用誌対象のオプションサービスとして、約 120 誌に JST が独自に開発したシステムをご提供していますが、J-STAGE３では、世界的に広く使われている ASP(Application Service Provider)サービスである「Editorial Manager」および「ScholarOne Manuscripts」を J-STAGE 用にカスタマイズしてご提供します（ご利用には一定の基準にもとづく利用優先度審査等があります)。

基本的な審査フロー構築、投稿審査機能については JST が無償提供し、学協会はこれまでと同様にご利用いただけます。(一部複雑なフロー構築、オプションシステムの利用は学協会側の負担)

本年 2011 年 4 月から、現行の J-STAGE2 システムご利用中の学協会の移行作業を開始し、秋から J-STAGE3 での新規投稿が開始されます。また、2012 年４月からは全ての機能が J-STAGE3 システムに切り替わります。

現行システムをご利用でない新規利用希望誌の受付は、詳細が決まり次第、2011 年下期以降にみなさまへご案内する予定です。

世界最大級の文献情報データベースと連携開始!

ー国内論文の海外への情報発信力を強化ー

平成 23 年 2 月 14 日（月）より、J-STAGE で公開している学術論文誌の情報発信力を高めるため、世界的に著名なデータベース“SwetsWise Online Content”を提供する Swets 社および“SciVerse Scopus”を提供する Elsevier 社さらに、韓国科学技術情報研究院（KISTI）との連携を開始しました。

Swets 社/Elsevier 社との連携では、J-STAGE で公開しているジャーナルに掲載されている論文の「タイトル」、「著者名」、「誌名」、「巻」、「号」、「抄録」などの情報を上記のデータベースに提供・収録（SwetsWise Online Content へ 103 誌、SciVerse Scopus へ 90 誌、KISTI へはほぼ 700 タイトル全て）することで、これらのデータベースを検索した世界各国の利用者が J-STAGE 登載の論文を閲覧することができるようになります。
Swets 社と Elsevier 社のプレスリリースにつきましては、下記にてご覧いただけます。

http://www.swets.co.jp/general/news/20110218.htm
http://www.elsevier.com/wps/find/authored_newsitem.cws_home/companynews05_01846

J-STAGE では、これまで Google 社との連携（平成 17 年度）などを進めてきましたが、Swets 社、Elsevier 社、KISTI との連携により、J-STAGE 登載論文の一層のアクセス向上を図ります。また、今後も日本からの学術情報がより広く迅速に世界へ発信されるよう、INSPEC などの著名な国内外のデータベース提供機関や中国科学技術信息研究所（ISTIC）などの公的機関との連携を進めてまいります。J-STAGE がアジアを代表する“世界の J-STAGE”となるよう、皆様からのご支援を今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

J-STAGE ニュース No.26 号　齋藤省吾先生のご指摘に関するご回答

前号（No.26）で、九州大学名誉教授の齋藤省吾先生から、論文中の「謝辞」の部分に記載されている研究支援制度や研究支援機関の名称の重要性につき貴重なご意見を頂きました。私達も、論文等の研究成果がどのような位置づけを期待されているかを知るためには、その研究のベースとなっている支援制度や支援機関が分かることが重要であると考えています。また、総合科学技術会議の諮問第 11 号「科学技術に関する基本政策について」（昨年 12 月 24 日）でも、「情報を関連付ける機能の強化を進め、」「研究情報全体を統合して検索、抽出することが可能な「知識インフラ」としてのシステムを構築し、展開する。」との記載もあります。今後の国の知識インフラ整備の一翼を担う私達としても、ご指摘頂いた論文と研究支援制度の関係を始め、各種、各署の基本的な情報をつなぐことのできるような仕組みを順次整備していく所存です。現状では、論文の謝辞に必ずしも研究支援制度が記載されているわけではありませんが、著者が記載しない場合でも、例えば研究支援制度側の情報から補完するとかの手法も取り得るかと考えています。齋藤先生をはじめ、皆様のご指導を今後ともよろしくお願い申し上げます。　（発行人：JST 知識基盤情報部長　大倉克美）

品質状況調査結果報告・電子化状況調査中間報告

昨年度に引き続き、コンテンツの公開状況の把握と品質向上を目的として、J-STAGE の品質状況に関する内部調査を実施しました（前回調査は 2010 年 1 月 1 日発行の J-STAGE News No.22 参照）。本年度は、J-STAGE 登載誌のうち 2010 年 1 月 1 日時点で新規公開後 1 年以上経過したジャーナル計 492 誌を抽出し、2007 年～2009 年に公開された論文を対象としました。調査は前回と同様、定量的方法で調査項目もほぼ同様です。

[調査項目例]

- 定期的発行性：(1)各巻号の公開間隔は一定に保たれているか
  (2)発行から公開までの期間が大きく開いていないか
- 収録論文（記事）の形式：収録論文数や本文記述言語、原著論文数の割合、英文抄録数の割合 等
- アクセス状況：アクセス数、1 記事あたり平均本文 PDF のダウンロード(DL)数 等
- 公開・運用状況：公開開始年及び公開範囲（アーカイブ記事とのリンクの有無）、認証機能の利用有無、投稿審査システムの利用有無、早期公開機能の利用有無 等
- 引用状況：J-STAGE 登載論文の被引用数（自誌引用を除く）、被引用ボタン（リンク）を持つ論文数 等
- その他：CrossRef や PubMed、Google、CiNii 等の外部リンクサービスとの連携ご利用状況、海外主要データベースへの収録状況

＜おもな調査結果：J-STAGE 登載誌全体＞

- 1 号あたり平均原著論文数:9.97 論文
- 年平均原著論文数:73.64 論文
- 1 号あたり平均英文原著論文数:4.87 論文
- 年平均英文原著論文数:33.85 論文
- 平均被引用率(自誌引用を除く/J-STAGE 内外含む):32.46%
- 平均英文抄録つき論文割合:82.72%

※昨年度とは一部集計条件等が異なる場合があります

＜おもな調査結果：ジャーナル単位での分析一例＞

本年度の調査では、評価指標のうちアクセス数と DL 数を重視して結果を試験的にポイント化しました。本調査範囲における、英文誌の最上位誌ベスト 3 は、日本薬学会様の 2 誌、日本農芸化学会様、日本化学会様、日本生物工学会様の各英文誌となりました。その他、以下に概況をご紹介します。

- 前回調査と同様の傾向として、総アクセス数や被引用数の向上に早期公開の利用が有効であることが見受けられたが、ジャーナル単位における総アクセス数と被引用数に顕著な関係性はみられない。
- 公開実績から、一定の日数間隔で論文が公開される度合い（定期公開率）を算出したところ、特に被引用との関係が強くみられ、定期公開率が高いジャーナルほど被引用数が多い。
- 公開・運用状況において、投稿審査システムの利用、外部リンクサービスとの連携、海外主要データベースへの収録、Journal@rchive へのリンク（バックナンバー）がなされているジャーナルは総アクセス数と被引用数が多い。また、認証別の平均アクセス数・平均被引用数より、認証制限がない論文ほどアクセスされやすく、また引用されやすい傾向がある。

一連の調査と関連して、平成 21 年度 J-STAGE 利用学協会意見交換会では「論文誌の価値向上」をテーマに「定期的発行性」「速報性」「早期公開等の機能活用」の 3 点についてディスカッションを実施しました。そこで皆さまの話題にあがった定期的発行性や速報性の確保、早期公開やリンクサービスの利用などが、ジャーナルのアクセス数や引用数の向上に有効であることが今回の調査で改めて確認されました。

なお JST では、わが国における学協会論文誌の電子化状況についての総合的な調査も実施しております。こちらの結果につきましても、利用学協会のみなさまと適宜情報共有等を行いつつ、今後の J-STAGE 事業展開の参考としてゆきたいと考えております。

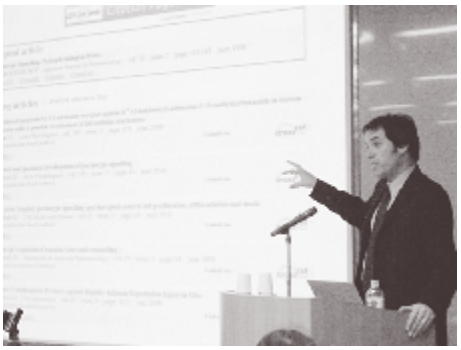
詳細については J-STAGE ホームページでもご案内する予定です。

J-STAGE フェア 2010 報告

2010 年 12 月 15 日（水）、JST 東京本部 B1 階ホールにて、初の試みとなる「J-STAGE フェア 2010」を、科学技術論文発信・流通促進事業アドバイザー委員会 セミナー・ユーザ分科会の後援の元に開催いたしました。

午前の部は、J-STAGE 利用学協会の皆様を対象に、J-STAGE3 の開発状況などの説明を行い、午後の部は、J-STAGE 未利用学協会の方々も交え、日本医学雑誌編集者組織委員会（JAMJE）の北村聖委員長からのご挨拶の後、以下の講演が行われました。

1. **“CrossRef –Improving scholarly communications–”**
   By Ed Pentz 氏 （CrossRef エグゼクティブ ディレクター）
2. **“How to unlock your journal’s full potential”**
   By Daniel McGowan氏 （エダンツグループ サイエンスディレクター）
3. **（キーノート）**
   By 林和弘氏（日本化学会課長 ※ハワイからのWeb遠隔講演）



J-STAGE 画面を示し講演中の Ed Pentz 氏

Ed Pentz 氏の講演では、CrossRef の役割、新サービスである「CrossCheck」「CrossMark」の目的や機能、さらに将来展望についてお話しいただきました。続いて、Daniel McGowan 氏よる講演では、J-STAGE は特に新興国の研究者にとって非常に魅力的な投稿先であること、この魅力を保持することの重要性が強調されました。キーノートでは、林氏から、「世界中の研究者が何を研究しているのがわかる時代になる。コンテンツの充実が重要」とのご意見をいただきました。なお、J-STAGE 説明会・セミナー等のご案内・資料詳細は、J-STAGE の HP でも公開しておりますのでご覧下さい。

http://info.jstage.jst.go.jp/society/meeting/

J-STAGE の各規約・細則が改正されました

J-STAGE 利用学協会様向けの「科学技術情報発信・流通総合システム利用規約」「J-STAGE 登載文献の利用細則」について、このほど各規約・細則の規定にもとづき、その内容が改正されました。

これは、J-STAGE において外部機関連携等サービスが多様化していることなどの状況があることから、データ連携に、いわゆる「オプトアウト方式」を採用することなどが念頭におかれたものとなっています。

また、J-STAGE 閲覧者の皆様向けの「閲覧規約」「リンクポリシー」もあわせて改定されております。

内容は以下をご参照ください。

- ◆ 科学技術情報発信・流通総合システム利用規約：
  http://info.jstage.jst.go.jp/info/policy/riyou.html
- ◆ J-STAGE 登載文献の利用細則：
  http://info.jstage.jst.go.jp/info/policy/saisoku.html
- ◆ 閲覧規約：
  http://www.jstage.jst.go.jp/ja/accessrules.html（日本語ページ）
- ◆ リンクポリシー：
  http://www.jstage.jst.go.jp/ja/linkpolicy.html（日本語ページ）

編集後記

♪このたびの大地震により被災された方々および関係各位に心よりお見舞い申し上げます。3/11に日本を襲った1千年に一度といわれる大地震。その後も続く余震や原発問題等、未だ不安の多い日々においては明るい話題が待たれます。一日も早い復興が実現しますように。H23 年度もJ-STAGE をどうぞ宜しくお願いいたします。

明るい話題をひとつ。J3運用開始予定日まであと･･･365 日！（石）

J-STAGE ニュース No. 27 2011 年 3 月 30 日

編集:独立行政法人 科学技術振興機構（JST）
イノベーション推進本部 知識基盤情報部 電子ジャーナル担当
発行人 知識基盤情報部長 大倉 克美
〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ
電話 03-5214-8837(ダイヤルイン)
E-MAIL contact@jstage.jst.go.jp